

4 寺社周辺と参道ゾーン

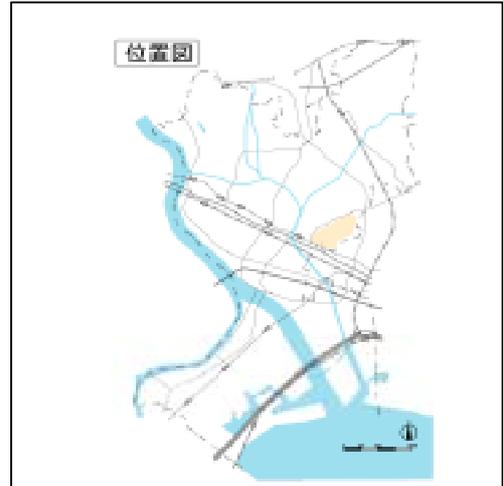
[1] 寺社周辺と参道ゾーンの基本要素と方針

1) ゾーンの特性と基本要素

「寺社周辺と参道ゾーン」は主に千葉街道（昔の佐倉道）沿いにある中山法華経寺や葛飾八幡宮、弘法寺など、市を代表する長い歴史を持つ寺社と周辺の寺町や住宅地から構成され、巨木・古木のある寺社林や周辺の斜面林が特徴となっています。

寺社を中心とした伝統的な風情は大きく変わることなく、現代に至るまで地域の文化として受け継がれ、象徴的な空間になっています。また、寺社と千葉街道を結ぶように設けられた参道は、地域の身近な商店街となっており、人々の日常的な暮らしの動線となっています。

しかし、近年は、風情を損なう看板や眺望を阻害する中高層建築物も見られ、門前町の情緒は次第に失われつつあります。



基本要素

寺社・参道・寺町などの風情 法華経寺参道、大門通り

法華経寺や弘法寺などの周辺には門前町、寺町が形成され、寺社と結ぶ参道もあって、景観上の大きな特徴となっています。これらの寺社を中心とするまち並みや参道は、現在、商店街などへの変化も見られますが、当時の門前町の面影を今に伝える歴史的な景観も残されています。

寺社林と周辺の緑 法華経寺など

法華経寺をはじめ、多くの寺社には巨木や古木などの寺社林があり、緑豊かな寺町風情を醸し出すとともに地域のランドマークにもなっています。また、台地の縁辺部には斜面林も一部で残されており、これらの樹木や樹林は、まとまった緑の眺望景観として、また、身近な緑の景観として重要な要素となっています。

落ち着いた住宅地

寺社や参道の周辺には住宅地が形成されています。このうち、台地上に位置する住宅地などは風致地区に指定され、斜面林などの周囲の緑が重なりあって緑が豊かな落ち着いた雰囲気があります。一方、参道周辺は密集した住宅地となっていますが、路地のある暮らしや歴史的なたたずまいが、趣のある風情を生んでいます。

伝統行事と賑わい

このゾーンは門前町として発展してきた地域であり、現在でも寺社を中心とした伝統行事が行われています。行事の際には、参拝客も多く参道筋にはより一層の賑わいが見られ、独特の風景が生み出されています。

2) 景観まちづくりの目標

歴史的風情を継承し、「趣ある街並み」をつくりましょう

現代まで受け継がれ、地域の文化を育んできた歴史的資産を受け継ぎ、守り育て、まちの風格と人々の愛着を高めていきます。

3) 景観まちづくりの方針

取り組みの主体 : 協働 : 市民・事業者 : 行政

寺社空間を際立たせ、歴史的情緒のある景観を守る

寺社や参道をイベント広場などとして活用し、人々の交流と人(成長)、文化を育む
歳時記などに応じたライトアップなどを行い、寺社空間を際立たせる(夜間景観)
寺社周辺では建物のデザインや見通しなどに配慮し、趣ある風情を守る
人々が回遊できる案内板・サインを設置し、寺社や地域の歴史を紹介する

参道の風情を継承しながら、賑わいのネットワーク(景観軸)をつくる

街灯や広告物、サインや案内板などを工夫し、統一感ある沿道の景観形成をすすめる
緑化やまちかど広場(ベンチ等)などにより、快適なたまり場とゆとりある参道づくりをすすめる
参道沿いの商店や住宅では、建物の形態や風情の演出など、歴史的な雰囲気づくりに配慮する
(伝統様式、建物ファサード、屋根、色彩、塀、のれん、ベンチ等)
電柱や電線の整除、可能であれば無電柱化(地中化)などを検討する
特に交差点付近では人々の往来に配慮しながら、参道の成り立ちなどを伝える案内板を設置し、安全でわかりやすいたまり場をつくる

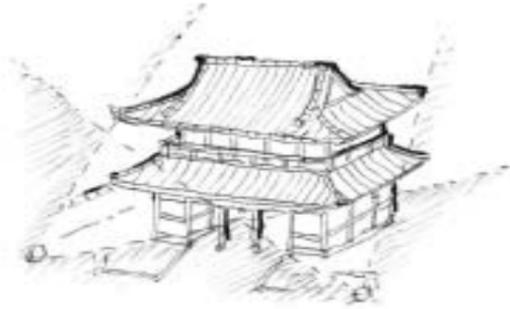
寺社・参道の風情が広がるまち並みを育てる

寺社の緑や緑地を保全するとともに、公共施設の緑化によって緑の連続性を生み出していく
まちかどの石碑や祠、道標などを身近な景観スポットとして生かし、歴史的なネットワークを結ぶ
公園や寺社の一角を地域の庭として、潤いのある見通しを確保する
路地や辻広場の風情を大切に、地域の生活と交流の場とする
周辺の住宅地の積極的な緑化によって、緑を面的に広げていく
地域の歴史や個性を生かした建物デザインとしていく(自然素材の活用、傾斜屋根、塀や駐車場の工夫など)

寺社周辺と参道の景観まちづくりのイメージ

参道の風情を継承するネットワークづくり

寺社空間を際立たせた歴史的景観を守る



寺社のライトアップ



人々の交流の場として寺社の活用

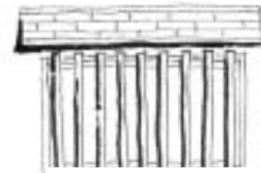


歴史的な建築物の見え方に配慮した配置とする

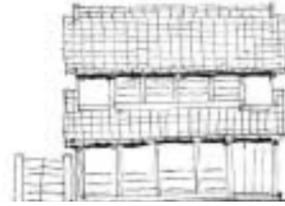
風情のあるまち並みづくり



地域の資源を守る



伝統的な意匠

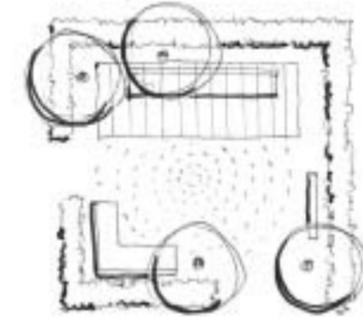
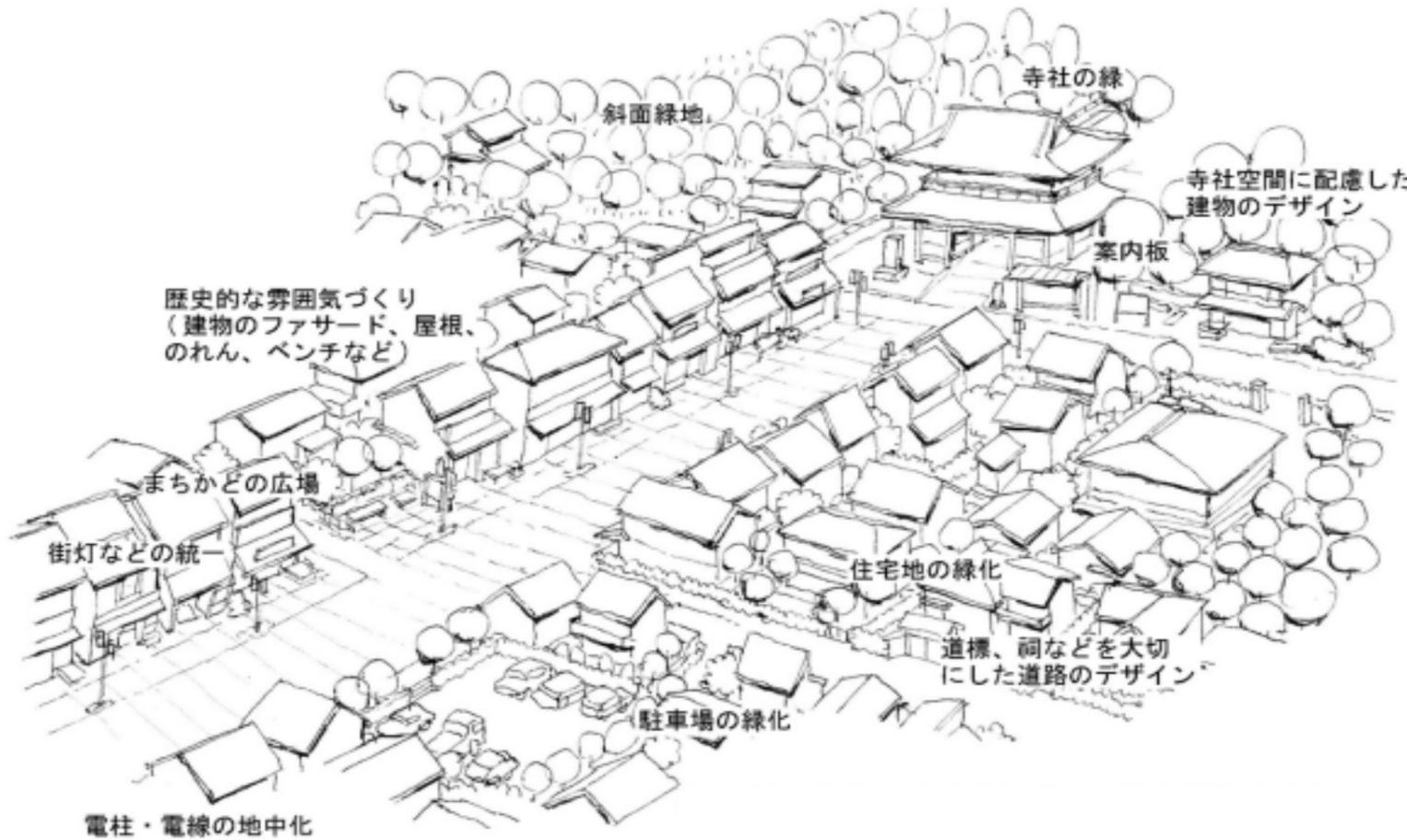


塙を後退し、緑道を広げる

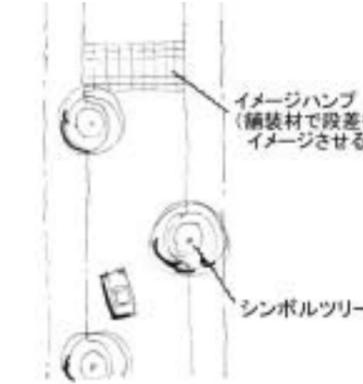
緑道 ← 敷地内



まちかど広場



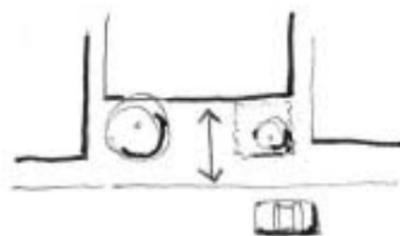
まちかど広場の緑化



イメージハンブなどで車のスピードを抑制する



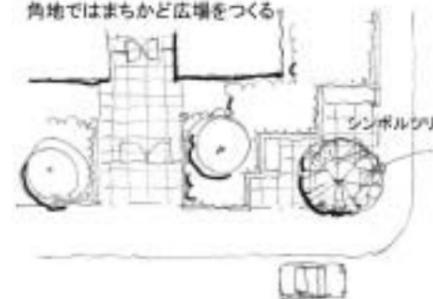
看板を共通のルールでデザインする



外壁を後退し、店舗の前庭として整備する



例えば周囲の屋根の形に合わせてみる



[2] 中山地区における景観まちづくりの推進

1) 歴史的成り立ちと概況

市北部の地形は、下総台地と谷底平野、市川砂州から成り立っていますが、中山地区は柏井台と呼ばれる台地と、市川砂州にまたがった区域に相当しています。

「中山」の名の初見は鎌倉時代であり、八幡荘谷中郷の内に、北方・若宮・高石神などの地名とともに見られます。当初は純農村であったと推察されますが、1331年に中山法華経寺が創建されてからは、同寺を中心として発展していきました。

室町時代は政情が不安定であったため、法華経寺も戦乱の影響を受けた模様ですが、江戸時代に入ると五重塔などが再建され、現在の寺域が確立されました。「江戸名所図会」によると、佐倉道（千葉街道・現在の国道14号）から寺の参道に沿って人家が見られ、門前町が形成されている様子がうかがえます。また、江戸時代から明治期まで、台地では畑作、砂州では果樹栽培が盛んに行われていたようです。このことから、かつての中山地区は門前町と農業集落の性格を併せ持っていたと言えます。

その後、総武鉄道中山駅開業（1895年）、京成電鉄京成中山駅開業（1915年）などを契機として、都市的開発が進み人口の増加が見られました。これに加えて関東大震災（1923年）や戦争の被災者移住などにより、次第に農地が宅地化されていき、商店街も形成され始めました。この間1915年には、人口の急増による無秩序な開発を防止するため、法華経寺周辺が風致地区に指定されています。

その後、宅地化などにより周辺の環境は大きな変化を見せましたが、法華経寺を中心とした寺町と参道の風情、落ち着いた住宅地の風情を保ちつつ、今なお歴史と文化の薫り高い地として、現在に至っています。

中山地区の今昔



出典：中山町鳥瞰図
中山参道周辺



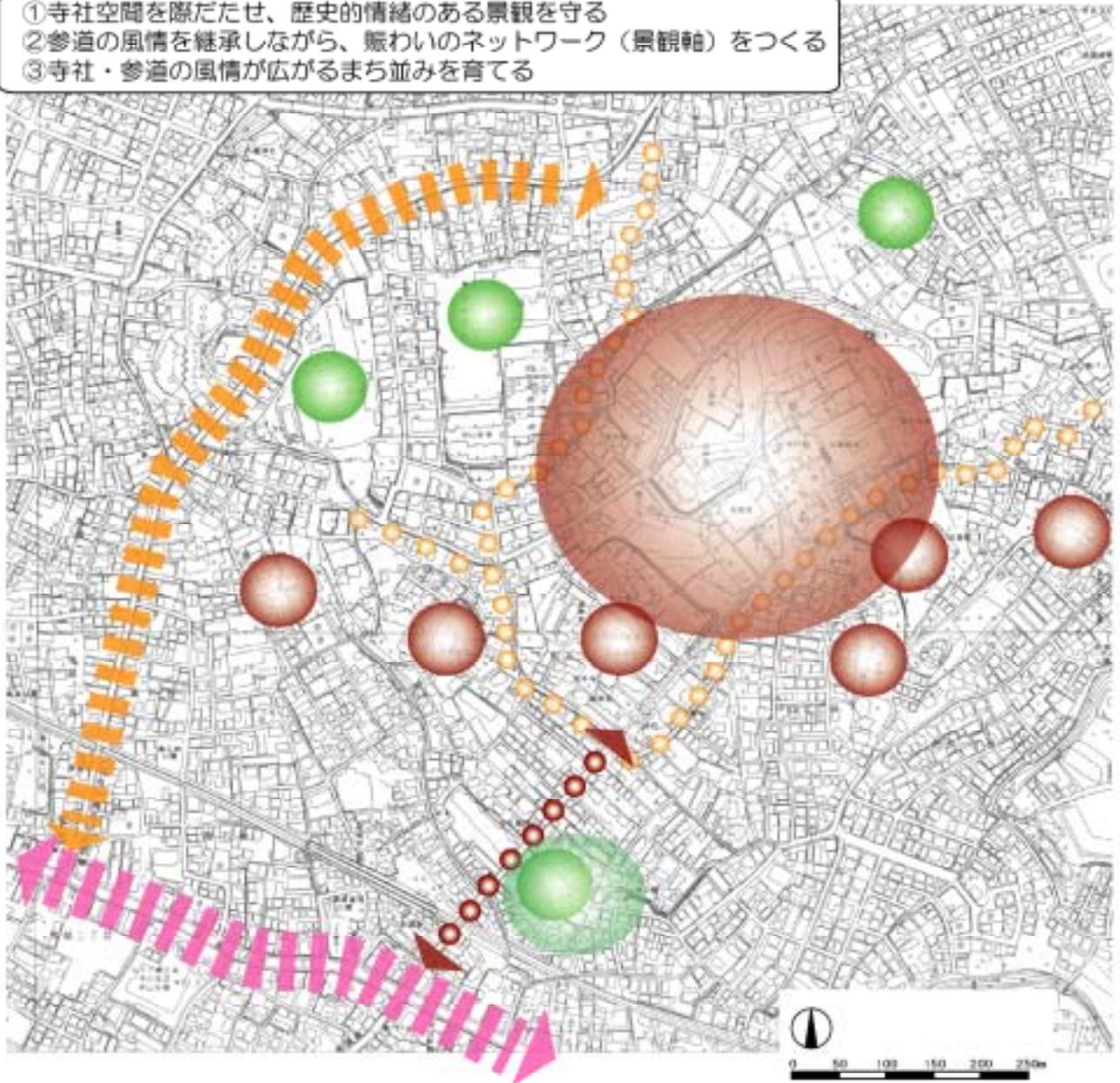
中山地区の空中写真(平成11年7月撮影)

2) 景観まちづくりの基本的な考え方

目標 時代を経ても変わらない、
中山らしく魅力的な景観をつくります

地域で進める景観まちづくり概念図

- ① 寺社空間を際立たせ、歴史的情緒のある景観を守る
- ② 参道の風情を継承しながら、賑わいのネットワーク（景観軸）をつくる
- ③ 寺社・参道の風情が広がるまち並みを育てる



凡 例	
全体計画	ゾーン別計画
市内を結ぶ道路景観軸	寺社空間を際立たせた歴史的ふれあい拠点
歴史的な道路景観軸（旧街道等）	緑を活かした地域のふれあい拠点
自然的景観資源	寺社・参道の風情が広がる街並み
歴史的景観資源	参道の風情を継承した賑わいのネットワーク

3) 景観まちづくり推進モデル地区(中山参道周辺)での具体的方針

中山法華経寺参道に活気と風情を取り戻す景観まちづくり
 参道商店街と住宅地を結ぶネットワークづくり
 緑の多い、風情ある落ち着いた住宅地の景観形成

【まちづくりの取組み方針】

	市民・事業者	協働	行政
方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・寺社林の保全と維持 ・周囲の緑化や塀の工夫 (歴史的な素材等地域にあったもの) ・お寺周囲の建物デザインへの配慮 (配置、色彩、意匠、緑化等) ・参道特有の商店街を残す ・参道にあった懐かしいファサードづくり(格子戸等) ・店先の演出(のれん、ベンチ、花等) ・商店街で特有な看板等の演出 ・夜間景観の演出 (お寺のライトアップ等) ・路地の空間づくり (風情のある塀や生垣化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊ルートづくり ・空地の活用 ポケットパーク、植樹、コミュニティ広場 コーナーの利用 ・赤門前のクロスポイントの整備 (ポケットパーク・溜まり場 壁面後退、借地等) ・黒門、赤門を地区のシンボルとして際立たせる (建物計画時は壁面後退等、ゆとりの空間を演出) ・京成中山駅駅舎の改良 (京成電鉄の協力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者優先の道づくり (一般車規制、時間指定一方通行、迂回路づくり) ・デザインは法華経寺内の参道と関連付けて一体感をだす) ・サイン計画と設置 (わかりやすい案内と解説) (地域にあった統一のサイン) ・可能であれば無電柱化 ・眺望景観のスポットづくり ・休憩できる場の整備 ・歴史資料室の整備 ・路地を活用したネットワークづくり ・街灯による懐かしさづくり
短期	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街としての定着 (建替え時も商業系施設づくり) ・商店街でのイベント活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山文化村のアピール
中期	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの気運づくり(勉強会等) ・商店街での共通認識づくり(船橋市との連携) ・地域で景観まちづくりプラン(ルール等)の検討 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援(助成等) ・表彰制度 ・地区指定

4) 計画実施課題

商店街のまとめり(船橋市との協力による魅力づくり等)
 参道沿道の住宅地化(空き店舗の増加による)
 中山法華経寺の協力
 交通規制への地元の協力

中山地区景観まちづくり方針図

